

ひまと 祝 成人

成人自らの手による成人式が、1月10日、川越運動公園総合体育館で行われました。今年度の新成人は、三千四百五十五人。当日は、晴天に恵まれ二千二百二十六人が参加。同級生との久しぶりの再会を喜ぶ姿が随所で見られました。式典では、新成人の代表二人が、それぞれ誓いの言葉を述べました。



誓いの言葉「社会に恩返し」
坂代綾香さん(藤間)

私は成人となった今、自由と責任の重みをひしひしと感じています。社会の一員として、自分の可能性を信じ、人との絆の輪を広げ、深めていきたいと思っています。

そして、よりよい社会の担い手として、自分に厳しく、人にやさしく、自分を高めていきたいと思っています。

今、無償の愛で育ててくれた両親に、お世話になった先生方に、そして温かく見守ってくださった地域の方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを行動で表わし、皆さんに、そして社会に恩返しできるように努めていくことを成人の日に当たり、ここに誓います。



誓いの言葉「全力で生き抜く」
榎本圭一郎さん(四都野台)

私は現在、教師になるという夢に向け勉強しています。小学生から高校卒業まで多くの先生と出会い、時には厳しく、そして温かく自分を育てていただきました。自分もこんな立派な仕事をできる人間になりたいと思っています。このような人々と巡り会えた私の二十年の人生は、最高のものに違いありません。

私は、いままで分からないことがあれば友達に尋ね、先輩や先生に頼り、何事も自分では決められない人間だったと思います。しかし今からは、私たちは頼られる側の人間になります。大人になったという自覚を持ち、これらの人生を最後まで全力で生き抜くことを成人の日に当たり、ここに誓います。



成人式運営委員会のメンバー

今回の成人式は、運営を自分たちで行うという初めての試みに挑戦。記念品の選定や司会の方法などに新成人の意見を反映させるため、会議を重ねたそうです。無事に式が終わり、ほっとした様子でした。新成人自らがかわったことで、身近に感じられた式となったようです。



誓いの言葉「全力で生き抜く」

二十歳の声

会場で聞きました

高橋昂平さん
新宿町5丁目
開業を目指し柔道整復士の勉強中です。理想は外国籍市民も気軽に通える国際的な接骨院です。

市村優衣さん
むさし野
管理栄養士を目指し勉強中。農業体験からも多くを学びました。食育を通じ、人の役に立ちたい。

片岡彩奈さん
大塚新町
建築士を目指します。多くの建物を見て学び、高層建築より、バリアフリーの建物を増やしたい。

落合彩香さん
仙波町3丁目
感謝の気持ちを忘れないように心がけたいです。親孝行をして、仕事で恩返しをしたいです。

小澤耕一郎さん
野田町1丁目
親に恩返しをしたいです。車の免許を取得したので、ドライブ旅行へ連れて行きたいです。

岩崎正義さん
東田町
社会人として、一家を支える柱として家族を養っていくために、仕事をしっかり頑張りたいです。

進士春樹さん
旭町3丁目
大学で建築を勉強しています。川越の新たな魅力を発掘して、さらなる活性化を仕掛けてみたい。

林まどかさん
大袋新田
勉強中の哲学を頑張ろうと思います。いろいろな経験を重ねて、もっと大きく成長したいです。

萩原俊樹さん
宮下町2丁目
政治に興味があります。大人としての自覚を持ち、責任を持った行動を心がけたいと思います。

厚生労働大臣表彰

ボランティアグループ ぎんれい

霞ヶ関公民館を中心に活動するぎんれいは、昭和62年に結成。長年にわたる65歳以上の一人暮らし高齢者向けの会食サービスや交流活動が評価され、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

長く続けられた理由を「できる範囲のことを自然体です」とと会長の五嶋法恵さん(75歳・かずみ野三丁目)は話します。

月に一度の昼食会では、季節感が出る旬の食材を使います。「食べやすい形に切ったり、歯に挟まらないように「コマは細かくすりつぶしたり、高齢者に配慮した工夫をします」と石井光子さん(70歳・笠幡)は、説明し



「エプロン姿は、ぎんれいのユニフォームです」と五嶋さん(前列左から2人目)



和気あいあい、にぎやかな昼食会

てくれまして。60歳代を中心とした五十人ほどのメンバーは、料理だけでは、力や発揮。また、「送迎を専門に行う仲間が加わったことで、料理に専念できます」と神田悦子さん(75歳・的場)。

昼食会には、他のグループが披露する楽器演奏や茶会などの「楽しみ」も用意してあります。参加者が楽しめるだけでなく、食事を通じて人の輪を広げることが、ぎんれいの特徴です。

メンバーは民生委員やその経験者が多く、活動が一人暮らし高齢者の安否確認に役立つているそうです。



クリスマス昼食会で配られた、和紙の手づくり干支

小江戸あるき

行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

霞ヶ関公民館を拠点とするボランティアグループ「ぎんれい」と、一番街のまちづくりを行う特定非営利活動法人「川越蔵の会」が大臣表彰を受賞しました。

総務大臣表彰

特定非営利活動法人 川越蔵の会

川越蔵の会は、まちづくりの組織として、昭和58年に活動を開始。歴史的建物の保存や観光化だけを優先するのではなく、商業の活性化や住環境の質的向上など、生活者としての目線を大切にしたり取り組みが評価され、総務大臣表彰を受けました。

約二百人いる会員は、商店経営者、住民、建築家、学識経験者などさまざま。市内在住・在勤ではない「川越ファン」の会員も約二割います。これまでに、自主的なまちづくりルールの作成協力や、川越にふさわしい建物を建てたい、伝統的な家屋を生かしたいという相談に助言する「町並み相談所」の開設など



「蔵の会の経験が、ほかの地域でまちづくりの役に立てばうれしい」と原さん(写真左)と可児さん(写真右)

住民主体で行う、まちづくりへの支援をします。同会が発足当



土壁塗り体験では、参加者から「難しい～」の声

初から提唱していた電線類の地中化も、平成4年に実現。川越の文化を守り育てる取り組みでは、蔵造りを利用した美術展、鍛冶・庭師・大工などの職人技を体験するイベントを実施。土壁塗り体験の参加者からは、「蔵造り」の過程を体験できたという好評だったそうです。

「今回の受賞は、発足当時から苦労してきた人たちの努力があつてのことです」と会長の原知之さん(54歳・幸町)。また、初代会長の可児一男さん(74歳・元町一丁目)は、「会の若い人たちのアイデアを生かし、これからもまちづくりの役に立てばうれしいですね」と話してくれました。